

令和2年度事業報告

I 事業概要

滋賀県は、琵琶湖をはじめとする豊かで美しい自然を有している。県土のおよそ2分の1を占める森林は、人工林、天然林が相まって四季折々の風情を醸し出しているだけでなく、生命の源である清らかな水を養い、県土を保全して、人間をはじめ多くの生き物のいのちを支えている。

こうしたことを背景に滋賀県では、「琵琶湖森林づくり条例」に基づき、環境に配慮した森林づくりおよび県民の協働による森林づくりが推進されている。

また、令和4年の春に滋賀県で開催予定の第72回全国植樹祭に向けて県内全域・県民総ぐるみで大会を盛り上げられるよう準備に取り組んでいる。

一方、国においては、「森林経営管理法」に基づき、林業の成長産業化と森林資源の適切な管理の両立に向けた森林経営管理制度を運用し、併せて、森林環境譲与税による市町村を中心とした新たな森林整備に取り組んでいるところである。

こうした中で、「中期経営計画」（令和元年度～令和5年度）（以下「中期計画」という。）に基づき、緑の募金による財源をもとに、自主・自立的経営を県民・企業・団体等の理解と協力を得ながら、公益財団法人として円滑な組織運営・事業運営を確保し、緑の募金の一層の普及・啓発と安定した収入による緑化事業の充実を図り、緑豊かな県土づくりを県民との協働により進めることを目指し、「SDGs（持続可能な開発目標）」が掲げる目標へ貢献するよう、新型コロナウイルスの感染防止対策の徹底に努めながら、次の事項に重点をおいて事業を展開した。

- 1 県民の森林・緑づくりの大切さの理解や緑化思想の普及・啓発
- 2 令和4年春に開催される第72回全国植樹祭へ向けて県民の緑化意識の向上や植樹行事への取組
- 3 地域住民等による森林づくりや森林ボランティア等による自主的な活動への支援と県民協働による森林づくり
- 4 地域住民等による学校、公園、街路等の公共施設を中心とした身近な緑づくりの推進
- 5 環境緑化に取り組んでいる企業の有料レジ袋収益金の寄付による平和の緑づくり事業等の実施
- 6 緑の少年団の育成強化への積極的な取り組みとして、「緑の少年団サポーター」である滋賀森林インストラクター会による少年団指導員の研修
- 7 適切な事業内容による組織運営とホームページをはじめ、様々な広報媒体の活用による情報公開の一層の推進

II 全体事業実績

1 森林・緑づくりの普及・啓発

(1) 緑の募金運動

1) 募金活動期間

春期 令和2年4月1日から令和2年 5月31日まで

秋期 令和2年9月1日から令和2年10月31日まで

2) 募金の方法

① 募金運動の推進

新型コロナウイルスの感染防止対策のために街頭啓発活動・募金及び春の家庭募金の一部は取りやめたが、市町緑化推進委員会、緑化推進会各地区担当、各種団体、企業などの協力により、家庭募金、職場募金、企業募金、学校募金および篤志募金を進め、企業および職場等への募金箱の設置、企業に募金協力を呼びかけるダイレクトメールの送付等による募金活動を展開した。

② 広報活動

緑の募金ポスター1,480枚、募金チラシ137,500枚（春募金115,500枚、秋募金21,400枚）、第20回「森林・緑と水といのち」写真コンクール募集ポスター700枚、チラシ10,000枚および「緑の募金・緑化推進」標語コンクール募集ポスター570枚、チラシ7,000枚等を市町および関係者の協力によって、自治会、各家庭、各種イベント会場や街頭募金等において掲出または配布し、広く緑の募金の啓発を行った。

また、春の啓発期間の開始に当たっては、新聞広告や天津市内のバス路線の一部において車外後部看板の掲出を実施し、緑の募金の啓発に努めた。

また、前年度に引き続き県域のテレビ、ラジオ等電波媒体による広報活動を実施した。

3) 募金実績

・募金目標額	60,000,000	円
・募金実績額	39,578,448	円
(内訳) 家庭募金	31,751,342	円
街頭募金	12,652	円
職場募金	1,017,850	円
企業募金	5,282,561	円
学校募金	212,233	円
篤志募金	1,301,810	円

(2) コンクール等の実施

第20回「森林・緑と水といのち」写真コンクールおよび「緑の募金・緑化推進」標語コンクールを実施するとともに、全国育樹活動コンクール、全日本学校関係緑化コンクール、国土緑化運動・育樹運動ポスター原画募集等への参加を促した。

1) 第19回「森林・緑と水といのち」写真コンクール入賞作品の展示

緑の募金啓発活動の一環として、令和元年度に行ったこのコンクールの入賞作品36点を4月16日から5月23日まで県庁4階の渡り廊下ギャラリーで、6月8日から10月2日まで県内で巡回展示し、緑の募金と緑化推進の啓発に努めた。

- 6月 8日～6月26日 安曇川公民館（高島管内）
- 6月29日～7月10日 長浜市役所（湖北管内）
- 7月10日～7月28日 県立文化産業交流会館（湖北管内）
- 7月30日～8月19日 愛荘町立ハーティセンター秦荘（中部・湖東管内）
- 8月19日～9月 4日 河辺いきものの森（中部・東近江管内）
- 9月 4日～9月18日 甲賀合同庁舎内（甲賀管内）
- 9月18日～10月2日 アル・プラザ瀬田（西部・南部管内）

※2) 第20回「森林・緑と水といのち」写真コンクール

このコンクールには226点の作品が寄せられ、審査の結果、特選（知事賞）をはじめ、金賞（県教育長賞）、特別賞（平和堂社長賞）、銀賞（緑化推進会理事長賞）など36点、36名の方が受賞された。

（※ 上記2）は平和堂事業）

3) 「緑の募金・緑化推進」標語コンクール

緑の募金の趣旨や緑化推進の大切さを県民の皆さんにご理解いただき、啓発を図るため実施したこのコンクールには、516点の作品が寄せられ、審査の結果、最優秀賞（知事賞）、優秀賞（県教育長賞、緑化推進会理事長賞）、努力賞（県森林組合連合会長賞、県林業協会会長賞、県木材協会会長賞）など、10点の入賞作品が選ばれた。また、そのうち優秀作品5点が（公社）国土緑化推進機構のコンクールに応募出品された。

4) 国土緑化運動・育樹運動ポスター原画募集

国土緑化運動・育樹運動ポスター原画を募集したところ、37点（小学生35点、中学生2点）の応募があり、優秀作品8点が（公社）国土緑化推進機構のコンクールに応募出品され、うち1点が入選した。

5) 啓発誌の発行

- ① 緑化推進会機関誌 湖国「緑の募金」（第37号） （3,200部）
- ② 緑の少年団機関誌「びわ湖緑の少年団」（第23号） （6,200部）

2 第72回全国植樹祭への取組

(1) 開催へ向けた緑化意識の向上

第72回全国植樹祭開催の周知を様々な機会を通じて図ることで県民意識の向上に取り組んだ。

緑の少年団の育成・強化のためこども水源の森サミット（緑の少年団活動交流会）および全国植樹祭関連イベントとして秋のプレ植樹祭を開催した。

開催日：令和2年11月22日（日）

会場：みなくち子どもの森、サントピア水口（甲賀市水口町北内貴）

こども水源の森サミット（午前）

参加者：緑の少年団 現地 11団（70人）
リモート 5団（57人）
計 16団（127人）

活動内容

みなくち子どもの森の森林散策、代表者植樹の後、サントピア水口でリモート交流会として、緑化関係表彰、少年団活動紹介、植樹の様子の放送、緑のクイズ大会を行い、木工工作による交流を行った。

秋のプレ植樹祭（午後）

参加者：300人（抽選による当選者）

活動内容

全国植樹祭ポスター原画コンクールや緑化功労者の表彰後、木工体験コースとして木の実のクリスマスツリーづくり、林業体験コースとして丸太の輪切りコースターづくりと植樹活動を行った。

（2）植樹行事への取組

第72回全国植樹祭実行委員会に参画し、植樹行事への助言を行うとともに、苗木のホームステイなどに支援した。

（3）企業等協賛への取組

第72回全国植樹祭実行委員会との協定に基づき企業等から提供される協賛金を受入れ同実行委員会へ納入した。

3 森林整備

（1）森づくりの支援

琵琶湖の水源として重要な役割を果たしている森林を健全に育成し、水源涵養機能および水質保全機能を高めるための森づくり事業、森林・林業への理解と参画意識を高めるための普及啓発などを主とした森づくり活動を支援した。

1) ふれあいの森づくり事業

地域住民が自ら森づくりに対する理解を深めるとともに、語らいや休養の場をつくるため、守山市ほか4市で、コナラ、ヤマモミジ等の広葉樹の植栽とともに、枯損木の伐採等の森林整備を行った。

2) 学校林づくり事業

学校林整備等により青少年の森づくりや緑への関心、理解を深めるため、大津市2校、長浜市1校の3校において、学校林等での苗木の植栽や下草刈りなどを実施した。

3) 協働の森づくり事業

森林ボランティア等が広く住民に呼びかけて森づくりを行う協働の森づくり事業として、2団体の活動に助成した。

4 緑化推進

(1) 身近な緑づくりの支援

1) 生活環境の緑づくり事業

生活環境をより潤いのあるものにするため緑化苗木7,661本を配布し、328箇所の公園、自治会広場および小学校等の公共施設において地域住民の協力により植栽を行い、地域の生活環境の緑化を図った。

2) 緑のまちづくり事業

小・中学校および公共施設等において緑化啓発および記念行事等として行われる植樹で、緑化の啓発効果が著しく期待できるものに対して緑化苗木を交付する事業で、本年度は8カ所を実施した。

3) 淡海の巨木・名木次世代継承事業

人々の心の支えやまちの顔あるいは地域の誇りとなっている樹木に必要な手当をすることにより、生き生きとした樹木として次世代へ継承していくことを目的として、県内3カ所（大原小学校のケヤキ、榎嶋神社のシイノキ、響の森のイヌザクラ）の巨木・名木に樹勢回復の事業費を助成した。

また、緑の文化遺産ともいふべき県内の巨木・名木に直接眼に触れることによって、緑化思想の高揚と啓発を図ることを目的とした「巨木・名木ツアー」は新型コロナウイルスの感染防止対策のために取りやめた。

※4) 桜の並木・森造成

県民の安らぎと憩いの場をつくり、国の花「さくら」に多くの県民が一層親しめるようソメイヨシノや神代アケボノ及びヤマザクラの苗木を公益財団法人関西みらい銀行緑と水の基金から550本、琵琶湖汽船株式会社から50本、計600本の寄贈を受けて、県下11市町の17箇所の地域広場、公園等の公共施設等に配布し、環境緑化を図った。

※5) 学校、福祉施設等の環境緑化の推進

公益財団法人関西みらい銀行緑と水の基金から紅梅の苗木175本の寄贈を受けて、県内の学校、福祉施設等に配布し、環境緑化を図った。

※6) 平和の緑づくり事業

株式会社平和堂の有料レジ袋収益金の寄附を受けて、県内の保育園3施設にシンボルツリーとして緑化樹木（県の木：モミジ）を配布するとともに、緑化樹木周辺にヤマモモ、ハナミズキ、サツキ等を植栽した。また、過去に実施した4施設において、モミジの種子採取と育苗活動を行った。

※7) ゴルファーの緑化促進事業

公益社団法人ゴルフ緑化促進会からの緑化協力金によりサクラ（しだれ桜1本、神代アケボノ5本）を滋賀県立陶芸の森に植樹した。

※8) 学校環境緑化モデル事業

学校環境の緑化を通じて青少年の環境教育の推進を図るため、公益社団法人国土緑化推進機構が「ローソン緑の募金」の協力を得て実施している学校環境緑化モデル事業として、長浜市立古保利小学校が採択され、交付金の助成決定を受けた。

※9) 学校林を活用した森林環境教育促進事業

学校林を活用してボランティア団体等と連携して森林環境教育を促進するため、公益社団法人国土緑化推進機構が実施する事業に長浜市立古保利小学校林が採択され、交付金の助成決定を受けた。

(※ 上記4)5)はともに現物苗木受領のため本会経理は未計上、6)は平和堂事業、7)、8)、9)は緑化一般事業)

(2) 森林・環境活動の支援

森林・緑に親しみ、愛し、育てることを通じて健全な心身を養うことを目的とする緑の少年団等の育成および支援を行った。

1) 緑の少年団等の育成および交流会の実施等支援

① 緑の少年団の育成支援

緑の少年団を育成するため、51団に対して活動装備の整備および活動費の助成を行った。

② 緑の少年団サポート事業

県内の緑の少年団の適正かつ効果的な活動を推進するため、「緑の少年団サポーター」である滋賀森林インストラクター会による少年団指導員の指導を行った。

a. 地区別集団指導

県内を4ブロックに分けて、室内・屋外研修(樹木観察)を8回(高島ブロックは1回、西部・南部及び甲賀ブロックは3回)実施。受講者:65人(51団)

b. 個別研修

個別指導希望団(4団)に対して、個別指導を行った。

③ 緑の少年団地区別交流会の開催

緑の少年団の育成・交流を図るため、県内1地区で交流会を開催した。

④ 機関誌「びわ湖緑の少年団」第23号の発行

本年は、鹿深夢の森(甲賀市甲賀町)での緑の少年団グリーンジャンボリーの様子、各団の活動状況などを掲載した機関誌「びわ湖緑の少年団」第23号を6,200部発行し、団員全員および関係者に配布した。

2) 緑の幼年団育成強化事業

次の活動団体を支援し、育成に努めた。

実施主体: NPO子どもネットワークセンター-天気村くさつ緑の幼年団

内 容: 学齢前の子どもやその保護者を対象に、身近な自然の中での「遊び」や他者との交流活動を通して、自然の魅力や面白さを体験する活動に対して助成した。

3) 森林緑化活動団体助成

地域において緑化等の活動を行っている次の団体に対し、活動費の助成を行った。

① 日本ボーイスカウト滋賀連盟の活動支援

街頭での緑の募金(今年度は新型コロナウイルス感染防止のため取りやめ)および森林づくり等の推進に協力している同連盟のキャンプ場の整備や植樹活動に対して助成した。

② 里山保全活動団体への支援

県内の里山保全活動が促進されるよう、里山の保全、整備の活動を継続的に行っている8団体の活動に対して助成を行った。

5 国際緑化協力の推進(県内国際交流会の支援)

多賀町緑化推進委員会が高取山ふれあい公園で実施した県内在住外国人と緑の少年団との国際交流会へ苗木等の資材を交付し、交流を深める活動に支援を行った。

6 情報公開の一層の推進および効果的な公益財団活動の研究

当会ホームページやフェイスブックの新着情報コーナーにより、随時活動報告をして、広く情報提供を行った。また、ラジオ等様々な広報媒体を積極的に活用して情報公開の一層の推進により、緑の募金の認知度を高めた。

効果的な公益財団活動の研究については、近畿7府県で構成する近畿地区緑化推進協議会に参画するとともに、全国緑化推進委員会連絡協議会総会等（今年度は新型コロナウイルス感染防止のためオンライン及び書面開催）で情報収集を行った。